令和4年度 第1回 都市計画道路田辺旭ヶ丘線再評価委員会 議事要旨

令和4年10月27日(木) 14:00~15:30

柏原市役所本館4階 大会議室1・2

■開会からの流れ

<事務局>

- ・富宅市長挨拶
- ・委員会の成立について(報告)
- ・委員紹介
- ・委員長選出
- ・都市計画道路田辺旭ヶ丘線 再評価 柏原市としての方針(原案)の説明
- ・審議

資料①

— 質疑応答 —

<柳原委員>

- ・費用便益分析の比較について、走行時間短縮便益が増加、走行経費減少便益と事故減少便益が減少しているのはなぜか。交通量が増加しているのか。平成27年のデータではなくなぜ平成22年データを使用しているのか。
- ・近鉄大阪線西側の歩車共存道路について、交通速度抑制対策などを行うのか。側道を整備する箇所は、道路が無い箇所であり車道にする理由があるのか。歩行者を中心とした整備した方が良いのでは。

<事務局>

- ・走行時間便益が増加、走行経費減少便益と事故減少便益が減少している主な要因は、交通量が減少したことにより走行しやすくなったことである。その結果、交通時間短縮便益が増加し、走行経費がかからなくなり減少している。また、交通事故便益も交通量が減少したことにより減少している。
田辺旭ヶ丘線の将来通量は、前回は7,400台/日、今回は6,800台/日と算定している。
平成27年道路交通センサスが公開されているが、将来ODデータは検討中である。

<柳原委員>

- ・交通事故便益が減少するのは、交通事故が減るから便益が上がる。確かに、交通量減少で走行時間短縮便益が上がるのは判った。時間短縮により燃料費等の経費も安くなり走行経費便益は増加するが、交通量の減少割合を乗じると減少することで理解できる。交通事故も、走行時間が短縮され走行速度が上がると交通の流れが良くなり事故も減少するが、交通量の減少割合を乗じると減少することで理解できる。

<事務局>

- ・歩車共存道路について、詳細設計において外側線を引きグリーンベルトなど視覚的な整備を行う等を検討している。側道に車道を設けることで、住宅街からの自動車を府道 27 号へ排除させることで歩行者の安全確保を図れると考えている

<渡部委員>

- ・歩車共存道路については、カラーリングなどの実施予定とのことだが、大阪府では府道 27 号の河内国分駅に向かい交差点部分から北に 320m 程度歩道整備事業のため用地買収を行っている。最終的には、両側 3.5m の歩道を整備し幅員を 16m に拡幅する。歩行者の安全確保の観点から、府の事業と連携を図り、歩道設置についても今後検討してもらいたい。
- ・昨今は、自転車と歩行者の接触事故発生が増加している。自転車通行帯設置を検討していないのか。

<事務局>

- ・大阪府から自転車通行帯は、ネットワーク計画が必要であるとアドバイスをいただいている。自転車の通行帯は、青の矢羽根を設置し通行帯の明示をするなど、ネットワークとして今後検討していきたいと考えている。

<渡部委員>

- ・大阪府も矢羽根の設置を行っているので、柏原市と連携して進めていけば事業効果が上がっていくと思われる。

<宮崎委員>

- ・令和 4 年から 5 年に詳細設計となっているが、地下埋設物の移設時期、道路工事着手の時期、及び最終的な供用時期の目標を知りたい。
- ・国道 25 号・165 号は、連続雨量 200mm 以上で河内国分駅と奈良県間で通行止めとなる区間がある。具体的には、国道 25 号は国分東条町の国分寺大橋東から奈良に向けて約 1.4 km が通行止め区間となる。国道 165 号は柏原 I C から奈良県境に向いての区間約 700m である。また、国道 25 号は平行して流れる大和川の藤井観測所の水位が 8.293 m 以上となると通行止めとなる。通行止め箇所の直近では困難であり、河内国分駅前と奈良県境で規制を行う。田辺旭ヶ丘線の道路整備により、交通規制箇所の見直しができる、地元住民に対しての通行に関してメリットも出てくるとと思われる。

<事務局>

- ・詳細設計を進めており、地下埋設物移設の事業者協議も進めたいと考えている。耐震見

直し等で高架部の構造変更等もあり、内容が確定次第、本格的協議を進めたい。その後、道路工事や橋梁下部工事に着手し、令和14年度の供用開始を目指していきたいと考えている。

<福田委員>

- ・河内国分駅周辺の交通混雑がひどい事は理解をしている。
医療関係で救急搬送時の到達時間が4分短縮されるということで、1分が命にかかわる問題の重要性を感じた。
道路整備において歩道に対する配慮がされており、早く整備を進めてもらいたい。
- ・堂島町で行われている住民参加の環境活動、緑化活動について、道路に緑地帯があることが望ましいと考えているが、国分地域ではどうか。

<事務局>

- ・国分地域でも原川という川の横の市道で実施しており、当該道路においても、地域の方々の協力を得ながら、地域活動の一つとして、清掃や花を植える場所の提供などを行い、道路に愛着や興味を持って頂きたいと考えている。詳細設計の見直しにおいて、地元へアプローチする時期に、地域住民へ調整・協力をお願いしたいと考えている。

－（その他、意見なし）－

<田中委員長>

- ・総合計画にも示されているとおり、地域の住民も含めて「安全・安心」や「災害対応」という言葉がかなり出てきているので、この両者をしっかりと見据えながら審議を進めていきたいと思う。ご協力をお願いします。

■閉会

<事務局>

- ・委員会の閉会后、現地視察をお願いします。
- ・次回の委員会開催時期は、現時点で令和5年1月下旬から2月初旬頃を予定している。具体的な日程調整については、追って事務局より連絡する。

以上